



中部大学春日丘高校 SGH課題研究

グローバル課題研究：カリキュラムE（政策提言発表）について

● カリキュラムE（政策提言）の概要

国際コースの第3学年（37名）は、第1・2学年時の「グローバル課題研究」の授業・ゼミ活動を通じて「グループ研究テーマ」に関する日本語と英語の論文を2年時に完成しています。そして第3学年の1学期の「グローバル課題研究」の授業では、その成果報告の準備をグループ単位で行い、3か年の探究学習の集大成として、2年時からのフィールドワーク訪問先に成果報告をしました。

● 3年1学期「グローバル課題研究」の実践報告（合計20時間）

| | タイトル（時間） | 所要時間 |
|---|---|------|
| 1 | *各グループで、政策提言マップを作成する。政策提言マップの観点項目は「社会背景と克服したい課題」「課題の克服によるメリット」「課題克服のためのアクションプラン」など *政策提言の作成・発表 グループプレゼンテーション発表、評価、質疑応答内容作成 | 4時間 |
| 2 | *パワーポイント・原稿作成 政策提言マップ（①社会背景と克服したい課題、②課題の克服によるメリット、③課題克服のためのアクションプラン など）をもとに、班で協力してパワーポイント・原稿を作成する。 *政策提言発表先 2年時のフィールドワークの訪問先と同じ場所で政策提言を行う。 | 14時間 |

● 訪問先、訪問日、報告内容

| | 訪問先 | 訪問人数 | 発表内容（テーマ） |
|----------|------------------|------|----------------------|
| 国際ビジネス1班 | 株式会社ナカヨ | 5名 | インターホンによるセキュリティ技術の向上 |
| 国際ビジネス2班 | 一般社団法人海外事業支援センター | 6名 | リスクマネジメント |
| 国際ビジネス3班 | NPO 法人 ORGAN | 5名 | 和傘を世界に広めるためには |
| 国際開発1班 | 中部有機リサイクル株式会社 | 6名 | 廃棄食料の再利用 |
| 国際開発2班 | 株式会社ベトーン | 5名 | ベトナムの水を安全にする |
| 国際開発3班 | 名古屋市役所環境局ゴミ減量部 | 5名 | フィリピンのゴミ山の増加を食い止める対策 |
| 国際開発4班 | 春日井市役所環境政策課 | 5名 | 日本の環境と世界の環境問題 |

フィールドワークの最終報告の一例

令和元年度 グローバル課題研究 最終発表報告書 (3年国際コース)

| |
|---|
| 1 発表日時、発表先 (会社、役所名、部署) |
| (1) 日時: 2019年7月11日 (木) |
| (2) 発表先: 名古屋市環境局ごみ減量部資源化推進室/減量推進室 |
| 2 発表内容 (要旨) |
| 始めに「なぜフィリピンに注目し、この研究テーマにしたのか」を発表させていただきました。そして論文・政策提言マップの内容の説明とそれに対する質問やご意見を聞きました。以前担当してくださった俵さんと橋本さんと違う観点で質問をしてくださったので、私たち自身今回のフィールドワークは、自分たちの研究を違う方向から改めて見つめ直せるものとなりました。そして、名古屋市役所が行っているごみ減量の政策や私たちが知らなかったフィリピンの現状も教えていただきました。また、最後にコストの安い焼却とコストの高いリサイクルを比べた時にリサイクルをなぜ推奨しているのかという理由も教えていただきました。それに加え、ゴミと資源の違いも知ることもできました。私たちの研究に対するアドバイスや知らなかったことをたくさん教えてくださいました。 |
| 3 ご助言 |
| 解決策の一つである段ボールコンポストについて |
| <ul style="list-style-type: none">・段ボール箱・基材・虫よけキャップを全て揃えると1セット1,600円かかり、その費用はどこから出すのか。・市民に買ってもらう場合、低賃金の人にはそれらのお金を用意することは可能なのか。・段ボールコンポストはやり方が難しく、家庭ではできたととしてもレストランや商業施設や市場では大変で、段ボールコンポスト以外のやり方に変える必要がある。 |
| スカベンジャーについて |
| <ul style="list-style-type: none">・スカベンジャーは生計を立てるためにゴミ山でゴミを集めているが、それはゴミ山の分別の仕事をしてくれていると捉えることができ、インフラ整備から始めて働く人の仕事内容を変えるのではなく、仕事環境を変えるのがいいのではないか。 |
| スウェーデンにゴミを送ることについて |
| <ul style="list-style-type: none">・2016年に日本はフィリピンに焼却施設を建設した。それが可能であったのは、市民全員が焼却に批判的な意見があるわけではないからではないか。・スウェーデンがなぜ大量のゴミを自国で焼却できるのかを考え、ゴミを輸出するのではなく、技術を輸入するほうが、フィリピンの今後のごみ処理に役立つのではないか。 |
| 施設について |
| <ul style="list-style-type: none">・フィリピンのゴミを減らすためには、ごみ処理施設を建設する必要がある。・名古屋市の場合は建設に税金を使い、企業ではゴミや資源を売ったお金を施設の維持費や従業員の給料に還元している。それがフィリピンでは可能かどうか。 |
| アクションプランについて |
| <ul style="list-style-type: none">・名古屋市では市内8か所に無料給水スポットを設け、マイボトルの使用を推進している。これは1日平均で565本の削減につながっている。ヒルトンホテルや東山動物園でも設置されている。これがより多く設置され利用者が増えれば、プラスチック削減に大きく貢献するのではないか。 |
| 4 気づいたこと、今後こうしたいと思ったことなど |
| 名古屋市役所を訪問した際に、名古屋市役所がプラスチック削減の政策の一環として、ティッシュの包装や水切り袋が段ボール生地になっているものをいただきました。いただいた際に自分たちの私生活を振り返ってみると、ティッシュは汚れを拭くとき、ケガをしたときの必需品となっていました。使い切ると包装袋は再利用できないので捨てていました。その行為がプラスチックを増やしているということに改めて気づかされました。またプラスチックを利用している企業にとってプラスチックは、軽く、安価で、加工しやすく印刷しやすいという利点があります。プラスチック削減に当たって、企業との話し合いも必要不可欠であると同時に感じました。 |

